

《ジール・ハキム議員が当社に来訪》

10月26日、来日中のバングラデシュ国会の有力議員であるジール・ハキム議員が当社に来訪された。同議員は2008年に初当選し、現在は住宅・公共政策省の諮問委員会の常任委員、バングラデシュ国会の公共事業委員会の常任委員などの重責を務め、直近では原油価格高騰に苦しむ国民のために、その緩和策を政府に働きかけるなど、民生向上を中心に活動されている。また、日本・バングラデシュ友好議員連盟の前会長であり、日本の総理大臣とも数度面会している知日派でもある。

同議員の雇用問題に関する来日の目的は、第1にバングラデシュ人の日本での雇用確保、第2にバングラデシュの若い世代に日本のものづくりやサービスの品質を学ぶ機会を得ること、と考えられる。日本をよく知る同議員は、バングラデシュの個人や国家にとって、日本で働くことを通して得る経験や知識は、他の地域で得られるそれよりも有意義だと確信しているようである。

同議員は当社とのミーティングにおいて、「バングラデシュは日本での知己がまだまだ少ない。アセアン・フィナンシャル・ホールディングスには是非にも両国の人材交流の橋渡し役、太いパイプ役を務めて欲しい。」とのことであった。当社会長の西川はその要望を快諾し、その役割を担うべくバングラデシュ政府、国会、大使館との連携を強化する考えを表明した。同議員が西川に対してバングラデシュ訪問を要請するなど、会談は友好的に進み、成果の多い場となった。



ジール・ハキム議員との会談の様子



会談を終え、リラックスするハキム議員と当社会長の西川。この後、国交樹立50年の記念品を頂戴する

《ジール・ハキム議員が当社に来訪された理由》

同議員が訪問先に当社を選択されたのは、当社がバングラデシュ大使館と良好な関係を構築していることが背景にあると思われる。当社は2022年2月にバングラデシュ大使館において、日本の企業、組合としては初めてバングラデシュ政府系機関である BOESL (Bangladesh Overseas Employment & Services Limited、バングラデシュ海外雇用サービス公社) と技能実習制度や高度人材などで包括的な提携に関する覚書に調印するなど、バングラデシュ政府の人材交流拡大計画に対していち早く、積極的に関与してきた。なお、詳細は財界2022年3月23日号の102ページ以下でも報道されている。

このような経緯から、当社訪問については駐日バングラデシュ大使以下、バングラデシュ大使館館サイドの強い推奨があったとのことであった。このような関係は当社の強みであり、お客様の利益として還元できる資産と考えている。



日本の企業、組合として初の調印となるバングラデシュ政府機関のBOESLと技能実習制度や高度人材などで包括的な提携の調印式(2022年2月、バングラデシュ大使館にて)



シャハブッディン・アームド駐日バングラデシュ大使と当社会長の西川

《日本の状況》

景気回復に伴って日本の雇用は再び逼迫しつつある。厚生労働省によると 2022 年 9 月の有効求人倍率は 1.32 倍となり、前年同月の 1.15 倍から大きく上昇している。経済活動の再開本格化に伴って求人が増え、人手不足感が強まりつつある。福井県 1.91 倍。島根県 1.74 倍、岐阜県 1.68 倍など、若年層が都会に流出している地方での人手不足感はかなり強い状態だ。

この不足を補う機能を果たしてきたのは外国人だ。これまで主に中国やベトナムからの人材供給で雇用の不足を補ってきた。しかし、近年中国やベトナムの所得水準の向上が著しく、更に急激な円安が日本で働く魅力を後退させている。その結果、人員数を集めることが困難になったり、人材の質が低下したといった問題も耳にするようになってきている。商品やサービスを供給するための人材ロジスティクスの将来を考えるうえで、中国、ベトナムに続く人材調達先の第 3 極を構築する必要性はかなり高まっていると考えられる。

《バングラデシュの魅力》

バングラデシュの魅力は人口規模だろう。その規模はベトナムの約 1.6 倍と大きい。若年層の構成比が高く、人口増加が続くことが見込まれている。生産年齢人口の増加数は年間 200 万人を超えるという予測もある。大規模な調達に十分に耐えられるポテンシャルがあるとみられる。

図表1 ファンダメンタルズの比較

	人口 (2021年、百万人)	人口密度 (2021年、人/Km ²)	一人当たり GDP(ドル)
インド	1,408	469	2,280
バングラデシュ	169	1,278	2,498
インドネシア	274	147	4,361
ベトナム	97	317	3,718
中国	1,426	150	12,562

出所 各種資料をもとに当社作成

人口密度の大きさも魅力だ。バングラデシュの人口密度は中国やインドネシアの 8 倍程度、インドの 3 倍程度と高い水準となっている。日本で働くこと、働く地域、働く会社、従事する仕事内容の魅力やメリットについて、フェイス・トゥー・フェイスでのアピールを大規模に、かつ効率よく実施することができそうだ。また、高い人口密度は人材の同質性にも寄与していると考えられる。

一人当たり GDP は中国の 12,562 ドルの 15%、ベトナムの 3,718 ドルの約半分の水準で、ベトナムの 2011 年の水準とほぼ同等である。バングラデシュの工業化の進み具合等を考慮すると今後かなりの長期間、日本で働く経済的メリットは揺るがないこと考えることができよう。

特に大きな規模で外国人人材を雇用し、運用している場合、現下の状況変化に対するコンティンジェンシー・プランとして、バングラデシュは有力な候補地として考えられるのではないだろうか。政府の積極的なサポートが期待できる点も考慮に入れると、フィージビリティ・スタディを始める価値は十分にありそうだ。

《我々アセアン・フィナンシャル・ホールディングスのお役に立てること》

我々は協同組合「善美」(<https://www.zenbicoop.com>) を通して、既に 10 以上の国々（インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、タイ、フィリピン、中国など）で、22 の送り出し機関と提携し、多様な人材の供給のお手伝いしております。

現在はベトナムや中国の人材が人材戦略の核となっていると思われませんが、これらの国々は経済成長が著しく、長期かつ不動の円安政策も相俟って、日本への良質な人材供給が後退する可能性が高まっています。中長期的にはこれらの国に続く人材調達先を考える必要があるでしょう。バングラデシュの人材供給能力のポテンシャルが極めて大きく、特に規模の大きな代替戦略を検討される際には有効な対象といえるでしょう。バングラデシュ政府も人材派遣先の 8 割を中東・インドが占めるという現状を変えたいという熱意を持っており、特に日本への期待は大きいと考えられます。

前出 10 以上の国々の政府関係者や人材戦略のトップとのコミュニケーションを通して送り出し国の情報収集に努め、ご報告させていただきながら、中長期的なお客様の人材調達戦略の最適化に貢献してまいりたいと考えております。是非、一度お時間を頂戴してご面談を賜りますようお願い申し上げます。